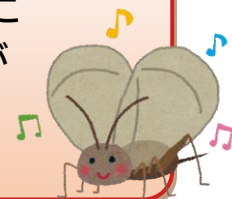




秋の夜長に聞こえる「虫の声」その音には秘密がある？

秋の訪れを感じる季節になってきました。暑さが和らぎ、夕暮れが少しずつはやくなると、どこからともなく聞こえてくる虫の声。スズムシやコオロギ、マツムシなど、秋にはさまざまな虫が鳴き始めます。秋の訪れを感じさせる虫の声を楽しむ文化は、世界的には珍しいそうです。今回はそんな虫の声についてご紹介いたします。



虫はなぜ鳴くの？

秋に鳴く虫の多くはオスが鳴いています。鳴く理由は、主に3つ。一つ目は、オスがメスに自分の存在を知らせるために鳴きます。夏の終わり～秋が繁殖期のため、「ここにいるよ！」という、いわば虫たちのアピール。二つ目は、なわばりを宣言し他のオスの侵入を防ぐため。三つ目は、オス同士のけんかや競争のためです。私たちには美しい「秋の音」に聞こえますが、虫たちにとっては大切なコミュニケーションなのです。



どうやって音を出しているの？

コオロギやスズムシなどは、羽と羽をこすり合わせることで音を出します。羽には細やかなギザギザした部分があり、そこをこすり合わせることで音が生れます。虫の種類によって羽の形やこすり合わせ方が違うため、聞こえてくる音も違います。

♪ スズムシ:「リーン、リーン」

♪ コオロギ:「コロコロ、コロコロ」

♪ マツムシ:「チンチロリン」



虫の声と「気温」には関係がある？

虫の鳴き方には、実は気温も関係しています。コオロギなどの鳴く虫は、気温が高いときほど鳴く感覚が短くなり、気温が低くなると鳴く速さがゆっくりになる傾向があります。秋が深まり、夜の気温が下がってくると、虫の声にも少しずつ変化が現れるのです。



→『 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 』



→『 ♪ ♪ ♪ 』

日本では昔から、虫の鳴き声を「秋の風情」として楽しんできました。スズムシやマツムシ、コオロギなどは、昔の和歌や俳句にも登場します。「虫の音に耳をすませる」という楽しみ方は、今でも秋ならではの風景のひとつです。忙しい毎日の中でも、夕方や夜に少し立ち止まって耳をすませてみると、思いがけず秋の訪れを感じられるかもしれません。

今夜は少しだけ、耳をすませてみませんか？

